

1 沿革

筑西市は、茨城県の西部に位置する人口約 10 万人の都市である。鬼怒川や小貝川などの河川が南北に流れ、肥沃な土壌に恵まれ古くから農業が営まれてきた。江戸時代になると、これらの河川を通じて商業や文化が育まれるようになる。

筑西市の歴史は、約 1～3 万年前の旧石器時代に始まり、縄文時代、そして弥生時代の各遺跡が分布しており、特に弥生時代の女方遺跡から人面付壺形土器が発見されている。また葦間山古墳や船玉古墳などの分布から古墳時代の新治国の様子がうかがえる。奈良時代には、古郡の地に常陸国新治郡の役所である新治郡衙と大寺（新治廃寺）が置かれ、新治郡の政治文化の中心地となった。

平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけて、伊佐氏、関氏、小栗氏らが勢力を持つようになり、御家人として源頼朝と行動をともにした。なかでも、伊佐氏は奥州合戦で軍功を挙げ、源頼朝から福島県伊達郡を拝領し伊達氏を名乗った。伊達（伊佐）朝宗は、のちの仙台伊達氏の祖となる。

南北朝時代に、南朝方の立場をとる関城城主の関宗祐は関館の地に北畠親房を迎え入れ、北朝方の軍勢と激戦を繰り広げたが、1343（興国 3 年、康永元年）年に南朝方の関城、大宝城、伊佐城は落城した。この合戦時に関城の城内で、南朝の重臣であった北畠親房は、南朝の正統性を著した『神皇正統記』を完成させたと伝えられている。

室町時代になると小栗氏は、室町幕府方として再三にわたり鎌倉公方に反抗した結果、公方に攻められ応永 30（1423）年に小栗城は落城した。また文明 10（1478）年には、結城氏のもとで力をつけた水谷勝氏が、下館に領地を与えられ下館城を築城した。

戦国時代になると各地で動乱が起こり、海老ヶ島城では結城氏、水谷氏、小田氏、上杉氏、北条氏、佐竹氏らが攻防を繰り広げた。

江戸時代には、水谷氏が下館藩主となるが、寛永 16（1639）年に備中国成羽藩（現高梁市）に国替えとなる。その後在番等の時代を経て、享保 17（1732）年に石川総茂が伊勢国神戸藩（現鈴鹿市）から下館藩 2 万石へ移って以降、明治維新まで代々石川氏が領主となった。この頃、下館藩領を除く市域の多くは、幕府領や旗本領が混在していた。江戸時代の後半になると、長引く天候不順により各地で農村の荒廃が進んだ。そのため「寛政の三博士」とも謳われた名代官・岡田寒泉が明野地域を中心に農

1 総説

村復興事業を行い、多くの農村を救った。また二宮金次郎（尊徳）により下館藩の財政再建や、掉ヶ島村や花田村といった農村の復興も行われた。

明治時代になると、全国的な自由民権運動の広がりの中で、明治 17（1884）年に、民権家たちが「自由の魁」の旗を掲げて加波山に立てこもった加波山事件の発端の地となった。また、明治 40（1907）年には、伊讃美ヶ原において明治天皇を迎えての陸軍大演習が挙行された。

市町村の状況は、明治時代に入ると下館藩領は下館県、幕府領や旗本領は若森県となり、明治 4（1871）年に茨城県の管下になった。約 150 か村に分かれていた市域は、明治 21（1888）年に市町村制の公布で 2 町 18 か村、昭和の大合併と町制施行で下館市、関城町、明野町、協和町となり、その後平成 17（2005）年に合併して筑西市が誕生した。

産業面では、下館地域が江戸時代中期以降に真岡木綿の生産の増加とともに、その集散地として鬼怒川の河川交通を利用して全盛期を迎えた。その後、明治 22（1889）年の水戸線開通により貨物輸送へと切り替わったことに伴い、鉄道を利用した商人の往来も盛んになり「商業のまち」としても栄えていった。明治、大正、昭和（戦前）にかけて下館や明野地域で農家の副業として奨励された足袋底製造が^{たびぞこ}発展し、最盛期には全国生産の 8 割を占めるほどとなった。現在は、平坦で災害の少ない地の利や道路網の発達により、市内各所に工業団地を有し、製造事業所数は県内でも上位である。

農業面では、江戸時代末期に関城地域で梨の栽培が始まり、現在も銘柄産地として多くの生産量を誇っている。また昭和 30 年代には、協和地域で小型のすいかの栽培も始まり、昭和 39（1964）年に開通した新幹線が名前の由来となった「こだますいか」の銘柄産地となっている。さらに近年では、関東屈指の米どころとしてだけでなく、蕎麦、麦、きゅうり、トマト、いちごなどの産地として今に至っている。

文化面では、江戸時代中期に俳人で画家の与謝蕪村が下館地域に約 10 年間逗留して多くの作品を残し、明治 38（1905）年には洋画家の青木繁が川島に滞在して作品を制作した。また、二人の文化勲章受章者である陶芸家の板谷波山、洋画家の森田茂の出身地でもある。このように、この地で活躍した文化人たちの功績が、「芸術のまち」として今日の盛んな文化・芸術活動の礎を築いている。

2 位置

筑西市は、東京から北へ約70kmの距離にあり、市の中心は東経139度58分、北緯36度18分で茨城県の西部に位置し、東西は約15km、南北は約20kmで205.30km²の面積を有している。

南は、下妻市及びつくば市に隣接し、東は桜川市に、西は結城市、八千代町及び栃木県小山市に、そして北は栃木県真岡市に隣接している。

地形は概ね平坦で鬼怒川、小貝川などが南北に貫流し、肥沃な田園地帯を形成している。

道路体系は、市のほぼ中心を東西方向に国道50号、南北方向に国道294号が整備され、この2路線が交差した部分が市の中心部になり、さらにここから石岡市・つくば市・古河市方面に放射状に県道が整備されている。

鉄道は、東西にJR水戸線が走り、下館駅を起点として南は取手駅まで関東鉄道常総線、北は茂木駅まで真岡鐵道真岡線が運行されている。

3 土地

令和6年1月1日現在

総面積(km ²)	東 西(km)	南 北(km)	海 抜(m)	
			最 高	最 低
205.30	15	20	200	20

資料:資産税課

4 地目別土地面積

各年1月1日現在 単位:km²

年	田	畑	宅 地	山 林	原 野	雑種地	その他	西 暦
令和5年	66.03	49.88	32.63	11.04	0.79	18.42	26.51	2023
令和6年	65.99	49.67	32.86	10.86	0.79	18.64	26.49	2024
令和7年	65.99	49.54	33.06	10.73	0.79	18.82	26.38	2025

注) 四捨五入の関係上、合計が総面積と一致しない。

資料:資産税課(概要調査)

5 気象

年(月)次	気 温(℃)			風 速(m/s)		降水量 (mm)	西 暦
	平 均	最 高	最 低	平均風速	最多風向		
令和5年	15.9	37.3	-7.9	2.3	北)	1,139.0	2023
令和6年	16.0	38.2	-7.5	2.3	北	1,356.5	2024
令和7年	15.6	39.4	-8.6	2.3	北)	917.0	2025
1月	3.9	13.9	-6.7	2.3	北	26.5	
2月	3.8	17.7	-8.6	3.1	北	4.0	
3月	8.8	25.5	-3.2	2.5	北)	109.5	
4月	14.1	28.6	1.1	2.9	北	95.0	
5月	18.1	31.2	7.6	2.5	南南東	186.5	
6月	24.1	35.5	14.5	2.3	南南東	119.0	
7月	28.0	39.4	19.6	2.6	南南東	48.5	
8月	28.6	39.3	22.1	2.0	南南東	30.0	
9月	25.1	37.8	14.4	1.9	北北東	151.0	
10月	17.4	29.3	4.4	1.9	北	87.0	
11月	10.2	22.8	-1.3	1.7	北	9.5	
12月	5.4	19.9	-6.0	1.9	北	50.5	

資料:水戸地方気象台

注1) 数値等は下館地域気象観測所(筑西市西石田)のデータ。

注2) 「値)」は統計値を求める上で、対象となる資料の一部が許容する範囲内で欠けている場合(準正常値)。

注3) 掲載されているデータは精査の結果、後日内容を訂正する場合がある。

6 市民のくらし

人口密度 1km²あたり 470.0人  R7	世帯人口 1世帯あたり 2.4人  R7	出生 1日あたり 1.2人  R7
死亡 1日あたり 3.9人  R7	婚姻 1日あたり 0.8組  R6	離婚 1日あたり 0.4組  R6
転入 1日あたり 9.7人 転出 1日あたり 9.4人  R7	市税 1人あたり 151,726円  R6	市の予算 1人あたり 763,686円  R7

市民所得

1人あたり 3,495千円



R4

消防職員

市民797.3人に1人



R7

医師

市民643人に1人

歯科医師

市民1,303人に1人



R6

教員教員1人あたり児童生徒数
11.3人

R7

救急出動

1日あたり 16.4回



R7

交通事故

1日あたり 0.4件



R7

刑法犯1日あたり 発生 2.1件
検挙 0.8件

R7

ごみ平均搬入量

1日あたり 101.5 t

し尿平均搬入量

1日あたり 111.3 t



R6

水道平均配水量

1日あたり 27,088m³



R6

7 茨城県内での「ちくせい」早わかり

分類	項 目	筑西市の 指標値・実数値	県内順位 (※注1)	県内44市町村の 平均値	基準日・年・年度
土 地・ 人 口	総面積	205.30km ²	12位	-	令和6年10月1日
	可住地面積	193.43km ²	2位	-	令和4年
	総人口	97,264人	8位	-	令和6年10月1日
	一般世帯人員 (1世帯当たり人員)	2.63人	9位	2.37人	令和2年10月1日
	人口密度 (総面積1km ² 当たり)	473.8人	23位	460.8人	令和6年10月1日
	年少人口割合 (14歳以下)	10.2%	18位	11.0%	令和6年10月1日
	生産年齢人口割合 (15～64歳)	56.3%	22位	58.0%	令和6年10月1日
	老年人口割合 (65歳以上)	33.4%	23位	31.0%	令和6年10月1日
	出生率 (千人当たり)	4.8‰	17位	5.4‰	令和5年
	死亡率 (千人当たり)	15.1‰	23位	13.7‰	令和5年
	高齢単身者割合	12.16%	35位	14.95%	令和2年10月1日
	未婚率	25.19%	27位	26.00%	令和2年10月1日
	外国人割合	4.03%	16位	3.24%	令和5年12月31日
経 済・ 財 政	市町村内総生産 (名目)	573,441百万円	8位	-	令和4年度
	製造品出荷額等 (従業者4人以上の事業所)	659,553百万円	7位	-	令和4年
	商品販売額	187,591百万円	9位	-	令和2年
	小売事業所売場面積	109,702m ²	9位	-	令和3年6月1日
	就業者割合(第1次産業)	7.46%	15位	5.24%	令和2年10月1日
	就業者割合(第2次産業)	35.10%	11位	28.77%	令和2年10月1日
	就業者割合(第3次産業)	57.44%	31位	65.99%	令和2年10月1日
	自市町村内就業者比率	28.98%	12位	26.63%	令和2年
	財政力指数(※注2)	0.652	23位	0.670	令和6年度
	実質公債費比率(※注3)	7.8%	14位	7.0%	令和5年度
	市町村民税 (住民1人当たり)	63.51千円	24位	70.96千円	令和5年度
	固定資産税 (住民1人当たり)	74.74千円	15位	74.57千円	令和5年度
教 育・ 文 化	歳出決算総額 (住民1人当たり)	472.19千円	28位	476.08千円	令和5年度
	幼稚園数 (3～5歳1万人当たり)	9.67園	38位	29.46園	令和6年5月1日
	小学校児童数 (教員1人当たり)	11.49人	29位	13.37人	令和6年5月1日
	中学校生徒数 (教員1人当たり)	11.86人	18位	11.72人	令和6年5月1日
	社会体育施設数 (10万人当たり)	66.10所	10位	40.60所	令和3年10月1日

分類	項 目	筑西市の 指標値・実数値	県内順位 (※注1)	県内44市町村の 平均値	基準日・年・年度
居 住 ・ 環 境	持ち家率	78.39%	15位	69.35%	令和5年10月1日
	水道普及率	92.0%	37位	95.3%	令和5年3月31日
	汚水処理人口普及率	77.7%	33位	88.1%	令和6年3月31日
	下水道普及率	33.9%	34位	65.4%	令和6年3月31日
	ごみ収集量 (1人1日当たり)	768g	39位	886g	令和5年度
	道路実延長 (総面積1km ² 当たり)	13.63km	9位	9.08km	令和5年3月31日
	市町村道舗装率	69.63%	18位	65.82%	令和5年3月31日
	自家用乗用車数 (千人当たり)	779.5台	13位	707.3台	令和6年3月31日
社 会 保 障 ・ 医 療	国民年金受給金額 (受給権者1人当たり)	684.9千円	32位	689.4千円	令和6年3月31日
	生活保護被保護実人員 (千人当たり)	9.5人	20位	10.3人	令和5年度
	児童福祉施設等数 (10万人当たり)	5.09所	42位	25.12所	令和5年10月1日
	一般病院数 (10万人当たり)	5.1施設	21位	5.4施設	令和5年10月1日
	一般診療所数 (10万人当たり)	80.4施設	3位	62.3施設	令和5年10月1日
	医師数 (10万人当たり)	146.3人	15位	201.9人	令和4年12月31日
	看護師・准看護師数 (10万人当たり)	1,085.8人	13位	1,074.3人	令和4年12月31日
	歯科診療所数 (10万人当たり)	53.9施設	8位	47.6施設	令和5年10月1日
	歯科医師数 (10万人当たり)	79.7人	8位	66.7人	令和4年12月31日
	生活習慣病による死者数 (10万人当たり)	758.2人	18位	661.3人	令和4年
	国民健康保険医療費 (被保険者1人当たり)	371,509円	11位	348,632円	令和4年度
安 全	火災出火件数 (10万人当たり)	54.95件	21位	49.01件	令和5年
	建物火災損害額 (1人当たり)	1,413円	16位	1,579円	令和5年
	交通事故発生件数 (千人当たり)	2.15件	20位	2.30件	令和5年
	交通事故死傷者数 (10万人当たり)	264.6人	22位	282.3人	令和5年
	刑法犯認知件数 (千人当たり)	8.75件	7位	6.99件	令和5年

資料：市町村早わかり(編集・発行：県統計課、発行月：令和7年7月)

注1) 各項目ごとの県内順位は、数値を見やすくするための目安として、大小順に付したものである。

注2) 財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指数であり、財政力指数が高いほど財源に余裕があるものとされる。

注3) 実質公債費比率は、自治体の実質的な借金が財政規模に占める割合のことであり、数値が高いほど返済の負担が重いことを示す。